
開講科目名：租税法研究III演習（4単位）

開設年次：2年

開設学部：法学研究科修士課程法学専攻

担当者：奥川 哲也

《授業の概要》

【授業の概要】

租税法研究（演習）の授業は、税理士試験の免除資格（税理士法に定める「税法に属する科目等」に関する研究で国税審議会から認定を受ける）を得るにふさわしい租税法（国際租税法を含む）の基礎の習得から修士論文の作成までにわたり、判例研究、各種論文研究及びこれらの発表・討議並びに研究テーマの選定及び研究発表・討議を行う。

【授業の内容】

租税判例につき、事前に実際の判決文、判例評釈や関連する論文等の自己学習を行ったものを、授業の場での発表・討議を通じてその理解を深め、修士論文の足場固めとする。

1. 1年生

1. 前期

■ 4月中は他ゼミとの合同ゼミとし論文作成に当たっての基礎事項を学ぶとともに各自テキスト（ベーシック租税法）を通読しておく。

■ 5月以降は事前にテキスト（租税判例百選（第5版））より各自が判例を選び、事前にペーパーにまとめ事前配布したうえで発表・討議に臨む。この段階では選定する判例は、『租税判例百選（第5版）』や『ケースブック租税法（第4版）』を参考にする。この間に他ゼミとの合同ゼミも数回行う。

2. 後期

■ 後期は前期よりもう少しレベルアップし、事前準備の段階では少なくとも論文1本以上（税務大学の税大論叢等）、判例評釈2本以上を読み込んだうえで発表を行う。

■ 12月から期末にかけては修士論文のテーマ選定を固め、早めに関連する資料の収集及びその読み込みを行う。

2. 2年生

2年生においては選定したテーマに関する更なる資料収集、研究、発表及び議論を行いながら、論文完成までを行う。

【評価方法】

出席とレポート（必要に応じて）及び修士論文により総合的に評価を行なう

《テキスト》

岡村忠生他2名『ベーシック税法（第7版）』有斐閣（2013年）

水野忠恒他4名『租税判例百選（第5版）』有斐閣（2011年）

《参考書》

金子宏『租税法（第19版）』弘文堂（2014年）

酒井克彦『フォローアップ租税法』財経詳報社（2010年）

酒井克彦『ステップアップ租税法』財経詳報社（2010年）

金子宏他3名『ケースブック租税法（第4版）』弘文堂（2011年）

その他必要に応じて指示する